

広島県のキンキヒョウタンボク (*Lonicera ramosissima* Franch. et Sav. ex Maxim. var. *kinkiensis* (Koidz.) Ohwi), スイカズラ科について*

世羅徹哉¹⁾

Notes on *Lonicera ramosissima* Franch. et Sav. ex Maxim. var. *kinkiensis* (Koidz.) Ohwi (Caprifoliaceae) from Hiroshima Prefecture*

Tetsuya Sera¹⁾

Summary

Preliminary research was conducted to clarify the taxonomical features of *Lonicera ramosissima* var. *kinkiensis* from three habitats in Hiroshima Prefecture. As a result, it was suggested that it is appropriate to consider that *L. ramosissima* var. *kinkiensis* from Hiroshima Prefecture is better regarded as *L. ramosissima* var. *ramosissima sensu lato*.

Keywords: Hiroshima Prefecture, *Lonicera ramosissima* var. *kinkiensis*, *Lonicera ramosissima* var. *ramosissima sensu lato*, taxonomical features

キンキヒョウタンボク (*Lonicera ramosissima* Franch. et Sav. ex Maxim. var. *kinkiensis* (Koidz.) Ohwi) は、スイカズラ科スイカズラ属の落葉低木で、Koidzumi (1937) が、コウゲイスカグラ (広義) (*L. ramosissima* Fr. et Sav. ex Maxim. var. *ramosissima*) に似るが、苞が線形であること及び葉がやや菱形状卵形～披針形状卵形で先端が鋭形となる点で異なる新種として記載した。その後大井 (1953a, b) がコウゲイスカグラ (広義) の変種とし、現在その扱いが一般的である (北村・村田 1971, 大井 1983, 原・大場 1989, Ohba 1993, Ito et al. 2016, 五百川・奥山 2017)。また、分布域が限られ、個体数が少ないことから環境省が絶滅危惧 I B 類に選定している (環境省 (編) 2015) ほか、各自治体の絶滅危惧種等に選定されている (兵庫県, 大阪府, 三重県, 奈良県, 滋賀県, 香川県, 広島県)。

本変種の分布域は、一般的な図鑑である「日本植物図鑑木本編 I (保育社)」や「日本の野生植物 (平

凡社)」では近畿地方と四国北東部とされ、広島県を分布域としていない。一方で、広島県を分布域に加えている文献としては、大井 (1953a, 1978, 1983), 広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会 (編) (1997) (以下「広島県植物誌」とする), 加藤・海老原 (2011) などがある。ところが、広島県産のキンキヒョウタンボクは形態的に典型的なものとは異なっているので再検討が必要であるとする見解が示され (吉野・関 2012), さらに井波 (1990) は、広島県産の資料を描くとともに、本変種をチチブヒョウタンボクなどの近縁種と区別するのは困難であるとしている。

以上のように、広島県のキンキヒョウタンボクについては再検討の余地があることが指摘されているが、具体的な検討は行われていない。これまで、広島県内のキンキヒョウタンボクの自生地は、県北西部 (北広島町) の 1 場所で、生育個体数

* Contribution from the Hiroshima Botanical Garden No.110

1) 広島市植物公園

Bulletin of the Hiroshima Botanical Garden No.35:1-5, 2021.